斉藤厩務員もお母さんにそっくりと驚くゴールドケープ

小島友実の

あの馬のSTORY

ゴールドケープ

明けましておめでとうございます。本年も一頭ずつ取材するスタイルで、皆様の愛馬の素顔をお伝えしていきますので、どうぞよろしくお願いします。

新年1月号でご紹介するのはかつてグリーンファームに所属し、小倉2歳ステークスを勝つなど活躍したジュエルオブナイルの初仔となるゴールドケープです。母も管理していた荒川義之調教師は生まれて間もない頃からゴールドケープを見ていたとの事。育成も順調に進み、昨年5月に栗東トレセンへ入厩してきました。ジュエルオブナイルは短距離で活躍しましたが、ゴールドケープは伸びのあるフットワークをする事から、デビュー戦は芝の1600㍍となり、6月の阪神競馬場でデビュー。しかし結果は8着。デビューからの3戦は思ったような結果が出なかったと荒川調教師は振り返ります。

「初戦は行き脚がつかなくて後方から。反応も今一つで伸びきれませんでした。2戦目は3着と変わり身を見せてくれましたが、3戦目は外から伸びるも8着。お母さんに比べると前向きさが足りない印象でしたね」

変化が出てきたのは3戦目のあと。放牧から厩舎へ戻ってきた頃でした。

「昨年秋に帰厩して以降、前向きさが出てきて、調教でもだいぶ動けるようになってきました。4戦目の新潟戦では木幡巧也騎手に『スタートから意識して前に出してほしい』と指示をして、木幡騎手も積極的に先行してくれましたね。ゴール前は外から強襲されましたが、なんとか凌いでの勝利。結果的に前へ行っていた事が有利に働きました。ジュエルオブナイルの初仔がまずは1勝してくれて、本当にホッとしました」

5戦目のファンタジーSでは5着に善戦。そして、2勝目をマークした白菊賞当日は、グリーンファーム愛馬会の集い、の日で、クラブとの縁を深く感じさせる勝利にもなりました。

「パーティ当日に勝てて良かったです(笑)。ワークフォース産駒で、重い馬場も向きましたよね。4戦目以降はレースぶりも母に似てきて、前に行けるようになってきています」

白菊賞を勝った後に厩舎を訪ねました。お気付きの会員さんもいると思いますが、ゴールドケープの担当はお母さんと同じ斉藤重美厩務員なのですよ。

「入厩前から、ジュエルに似ていると聞いていて実際に見たら、横から見た時の鼻の感じまで本当によく似ているので、驚きました。でも性格はゴールドケープの方が落ち着いています。お母さんは気性が激しかったからね。ただ、お母さんも2戦目までは大人しくて、3戦目の小倉2歳S時から突然、燃えやすくなったから、今後はゴールドケープもわからないね(苦笑)。気性は今のままでいってほしいです。飼葉は母同様、時間をかければ食べますね。レース後の疲れを残さないタイプで、その辺りは母のタフさを受け継いでいます。脚元や内臓面など、不安な所がないので、扱いやすい馬ですよ」

取材中、斉藤さんの首元をずっと甘噛みしていたゴールドケープちゃん。それに優しい表情で対応している斉藤さんを見て、良い信頼関係が築かれているなと微笑ましくなりました。

この取材後に出走した阪神ジュベナイルフィリーズは6着。レース後、荒川調教師はこのように語っていました。

「一瞬、来たかと思わせる脚を使ってくれて、最後は切れ負けしたものの頑張っていました。母も阪神JFに出走していますから(11着)、親仔で同じレース、それもG1に出走出来た事は凄く良かったですね。ゴールドケープは偉い馬だと思います」

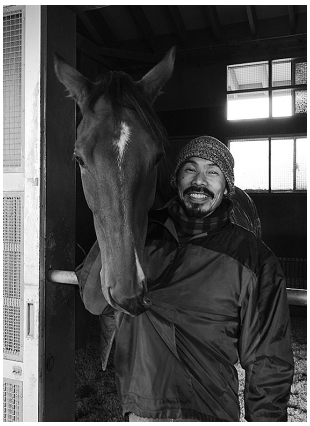
阪神JFが見せ場十分だった事で、今年の飛躍が益々楽しみになりました。

「父がワークフォースですから、母より距離の融通性はあると見ています。適距離はマイルくらいでしょうね」

となると、春の大目標はやはり!?

「桜花賞?まず目指すところはそこですよね。今後も成長していけると思うし、あとは血統的に気性面でうるさくならないように注意しながら調整していきたいです。応援して下さい」

桜花賞に出走し、古馬になっても勝利を重ねた母同様、ゴールドケープにも長い活躍を期待したいですね。



斉藤厩務員のジャンパーを引っ張るゴールドケープちゃん

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00～20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。